

タマネギ

元肥にリン酸肥料を十分に

タマネギの生育は、15〜20度の冷涼な気候が適し、10度以下では生育が停止しますが、春になり気温が上がり、日が長くなると肥大します。

【品種】

早生品種は収穫期が早い反面、貯蔵性に劣り、反対に中晩生品種は収穫期が遅いが貯蔵性に優れます。長い間収穫を楽しむには早生と中生を作ることをおすすめします。JAGグリーンセンターでは「ソニック」「O・K黄」「ネオアース」(いずれもタキイ種苗)などを取りそろえております。

【畑の準備】

植え付けの2週間前に、1㎡当たり苦土石灰100gを散布してよく耕しておきます。1週間前に化成肥料(N-P-K 15-15-15%)100g、過リン酸石灰(過石)50g、堆肥2kgを全面にまき、深さは20cmくらいに

耕します。ベッド植え(4条植え)にする場合は幅90〜100cmの栽培床を作ります(図1)。すじ植え(1条植え)では、畝幅60cmとし、幅20cmの溝を掘り、畝1m当たり化成肥料50g、過石30g、堆肥1kgを入れて、土とよく混ぜておきます(図2)。

【植え付け】

11月に入ると園芸店で苗の販売が始まります。草丈20〜25cm、太さ5mm程度の苗を購入し、霜の降りる前までに植え付けると良いでしょう。ベッド植えでは、黒ポリマルチを張れば

雑草が抑えられ、地温を上げて生育が良くなります(マルチ栽培)。穴開きマルチを使う場合は穴の規格に依りて、条間15〜20cm、株間15cmに植えます(図3)。1条植えでは、株間10cm程度にします(図4)。

【追肥】

1月上旬と2月中旬〜3月中旬に、1㎡当たり化成肥料20gを株元にまき、土寄せします。マルチ栽培では、株元(マルチ穴)に化成肥料を施します。

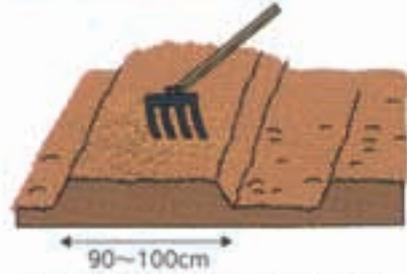
【病害虫の防除】

葉が白くカスリ状となるネギアザミウマ被害には、オルトラン水和剤などで防除します。さび病やべと病は、ジマンダイセン水和剤などで予防します。

【収穫】

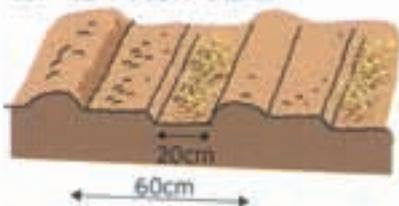
畑全体の7〜8割の茎葉が倒れたら引き抜きます。2〜3日、日に当てて干してから、数球ずつ束ねて風通しの良い所につるし、貯蔵します。

図1 畑の準備(ベッド植え)



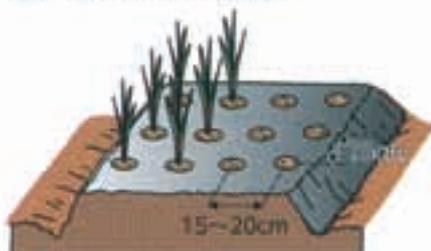
1平方m当たり化成肥料100g、過石50g、堆肥2kgを入れ、よく混合してからベッドを作る

図2 畑の準備(すじ植え)



溝1m当たり化成肥料50g、過石30g、堆肥1kgを入れて、土と混合する

図3 植え付け(ベッド植え)



条間15〜20cm、株間15cmに植え付ける

図4 植え付け(すじ植え)



株間10cm。深さは苗の白い部分まで土を掛ける。株元を足で踏んでおく

彩・菜・栽

2019年
11月